

こころ日記

「ぼちぼち」

(10) 家族理解

脇野 千恵

家族理解

長い教員生活で、どのくらいの子も達と関わってきたのだろうと、振り返ることが多いこの頃です。

楽しいことも多くありましたが、やはり子どもを育てることのしんどさも数えきれないほどあったのも事実です。

今回は、その一つ、N子の話でこの「こころ日記」をひとまず閉じたいと思います。

父、母はだれ？

N子は、当時の勤務校の地元の子もでした。大きな屋敷に、祖父と祖母との三人暮らしをしていました。そこそこの広い田畑を持ち、祖父母は専ら畑仕事に精を出す毎日でした。N子はとてもおとなしく、どちらかというと寡黙な子で、勉強も真面目

に取り組むことができました。

学校行事には、祖母が必ず出席し、孫育てに祖父母共に、とても熱心だったことを覚えています。

ある日、祖母から「折り入って相談がある」と言われ、面談することになりました。

最近、孫が反抗的でとてもやりにくい、どうしたらいいのかわからないというのです。今までとても素直だった孫が、最近は祖父母の言うことに無視をしたり、乱暴な口で言い返すというのです。

担任をした時から、N子の家に父母がいないことが、ずっと気にかかっていた。それまでそのことについて尋ねる機会がなく過ぎていましたので、

「N子さんのお父さん、お母さんについて、教えていただけますか」と話しかけました。

N子の祖母は、静かに語り始めました。

「私たちの一人娘は、結婚を機に遠くで

暮らすことになりました。まもなくN子が生まれましたが、産後の体調の変化で急に亡くなってしまいました。乳飲み子を抱えた父親が、子育てに困り果て、私たちのところにN子を連れてきました。父親の実家や親戚は、早く実家に帰してしまえと言ったのでしょうかねえ。娘婿は、N子を私たちに育ててほしい、そして今後一切の縁を切ると言うのです。もちろん養育費は、もらっていません。」

何とも辛い話です。たった一人の娘を亡くしたことさえやりきれないのに、孫を育てなければならぬことになってしまったのです。N子は祖父母を父母と思い、大きくなっていったのですが、年頃になり、周りの友だちと比べることで、何かに気づいたに違いありません。そのことが、祖父母への反抗という形で現れたのでしょうか。祖母が学校へ来ることも嫌がるようになっていました。

祖父母の悩みは、「N子に、母親の死のこと、父親はいるが今は再婚してしまっていること」を、いつどのようなタイミングで伝えたらよいのだろうか？ということでした。老い先短い祖父母が、孫の行く末を案じてのことでした。

当時、あまり家族理解への知恵を持ち合わせていなかった私にとって、重たい相談でした。いつ誰がそのことを、どのように伝えるのか、本当に難しいと思いました。

確か、

「子どもが知りたいと思った時がチャンスだから、もしかしたらそれが今なのかもしれ

れませんね。」

といったような気がします。

私から伝えるといったことも提案されましたが、やはり、子育てを頑張っている祖父母の口から伝えることが大切だとも言いました。

たった一年間の関わりでしたので、祖父母が孫に、父母の事実を伝えたかどうか確認できないままになりました。

あれから20年。N子はどうしているのだろうと思い出すことがあります。自分の境遇をしっかりと受け止められたでしょうか。高校は、卒業したのだろうか。70歳は過ぎていただろう祖父母は、今も元気に暮らしているだろうか。

今、学校現場では、N子のように祖父母に育てられている子が、増えてきています。社会の変化と共に、家族も多種多様化していることを実感します。

離婚した娘が母子で実家に帰る。両親の離婚によって、兄弟がバラバラにそれぞれの祖父母のところへ引き取られるケース。祖父のお金を何十万と使い込み、友人にお金をばらまいていた事件。また、祖父母の家がたまり場になってしまった例など。

一度子育てを終えた人たちが、また孫育てに翻弄される姿は、本当に気の毒としか言いようがありません。

明らかにN子と関わった時代とは、何かが変わってきたなと感じています。

脇野千恵（中学校教員）